人文科学研究所　研究報告会

日　時　：　平成 **29（2017）年 12 月 2 日（土）13：00～**
会　場　：　大東文化会館　K-0301　　※聴講自由

◆　所長挨拶

◆　**報告１　１３:１０～１３:４０**

デジタルマイクロスコープで見る料紙の一考察
―「香紙切」と複製「筋切」を中心に―

「装飾料紙の研究」研究班

報告者：**野中　直之**

これまで古筆切などの料紙の調査を行う際は、その紙質や装飾加工といった肉眼で確認できる情報を中心に行われてきた。しかし、ここ数年で急速に普及したデジタルマイクロスコープを使用し、料紙の繊維の状態を観察することで、これまでの説とは異なる特徴を窺い知ることが可能となった。殊に、平安時代の古筆切である伝小大君筆「香紙切」（『斎宮女御集』）の料紙について、稀に異なるものが存在することを確認した。また近代の複製である伝藤原佐理（推定・藤原定実）筆「筋切」（『古今和歌集』、田中親美編、大正 11 年発行）においても、実物の状態を再現するために行った工夫の様子を確認することができた。本報告では、これら 2 点を中心に料紙の繊維を見ることの意義を再確認したい。

◆　**報告２　１３:４５～１４:１５**

「『中国書画家鑑蔵印文索引（仮）』の作成とその意義」

「中国書法史の文献学的研究」研究班

報告者：**髙田　智仁**

所蔵あるいは鑑賞した書画書籍上に押印する鑑蔵印は、中国書画史の文化的特質の一端であるとともに、今日の我々に当該書画書籍の来歴を明示する、貴重な文献資料の一つにも数えられる。無論、これまでにもこうした印を集成した工具書は刊行されてきた。しかし、それらは極一部を除けば用印者別に編集されてきたため、押されてある印（印文）が誰の用印であるかを求めたい場合には、ひたすら該書のページをめくる労力を要した。そこで、当研究班では、斯学発展の一助となるべく、印文別に分類した索引の作成をこれまで進めてきた。本発表は、本年度、研究報告書として公刊予定である印文索引のこれまでの作成経過とその意義とを報告するものである。

主催：文学部事務室・人文科学研究所

◆ **報告３　１４：２０～１４：５０**

『詩経』と出土文物から見る周人の故郷

「中国古代研究 ―出土資料と伝世文献―」研究班

報告者：**吉田　篤志**

『詩経』大雅の緜・巻阿・文王有声や小雅の雨無正・賓之初筵・楚茨の諸篇には、周人（文王の祖父古公亶父）が岐山の麓（陝西省 周原地区）に移住し、肥沃の土地であることから都邑を造営したことが歌われており、これを裏付けるように、周原地区の建築遺構からは甲骨文が、多くの窖蔵（土を掘った穴）からは青銅器が出土し、周公廟付近からは大型墓や青銅器、またその鋳造工房が発見された。当報告では、『詩経』や出土した甲骨文（周原甲骨）・青銅器（祭礼に使用する鼎・簋・楽器等）の銘文や模様から、周人の故郷とも言える周原遺跡や周公廟遺跡の様相を明らかにし、周初の歴史や文化について論じてみたい。